

ダンボールコンポスト 取扱説明書



準備するもの



ダンボール箱

- ・みかん箱程度の大きさ(40cm立方くらい)で2重構造のもの
- ・かき混ぜるのが簡単のため、口の広いものがオススメ



基材

- ・ピートモス(15ℓ)・・・水ごけが堆積し腐植したものを乾燥、粉碎したもの
- ・くん炭(10ℓ)・・・もみ殻を炭にしたもの

《 ピートモス:くん炭 = 3:2 》 ※土壌改良材としてホームセンターなどで数百円で販売

底敷用ダンボール

- ・ダンボール箱の底にフィットする大きさのもの



防虫カバー

- ・ダンボール箱の中に虫が侵入するのを防ぐためのもの
- ・Tシャツを加工したものやバスタオルで代用できます。(作り方をP. 6に載せています。)

底上げ台

- ・ダンボール箱の底の通気性を保つためのもの。
- ・メッシュ構造の台(苗ケースなど)や木片やレンガなど。



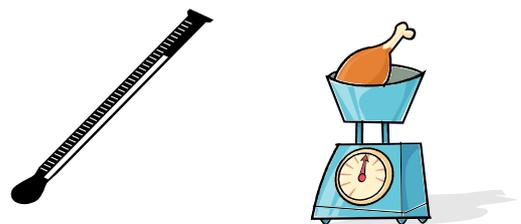
スコップまたはゴム手袋

- ・ダンボールコンポスト内をかき混ぜる際に使います。

《あれば便利なもの》

温度計(100℃計)

- ・基材の温度を測るためのもの。微生物の活動状況を確認できます。



はかり

- ・生ごみの量を計量することができるため、どれだけ減量したかを実感できます。

容器の作り方



① 1つ目の箱の角や穴をガムテープで補強します。



② 2つ目の箱は底以外の部分を同様に補強します。



③ ①の箱の底に底敷用ダンボールを入れます。



④ ①の箱に②の箱を入れます。



⑤ 容器の完成です。

設置方法



① 水に濡れない場所に置きます。
※水に濡れるとダンボール箱が傷みます。

② 通気性をよくしてください。
※底上げ用の台の上に乗せ、壁などからも離してください。

生ごみの投入前に

基材をダンボール箱に入れ、よく混ぜ合わせて全体に空気を取り込みます。

※時間をかけて、よくかき混ぜてください。

※水分を加え、粉(ほこり)が立たない程度に湿らせてください。

投入方法



①基材の中心に穴を掘り、掘った穴に生ごみを投入します。

※1日の投入量は、**500g**を目安としてください。

※生ごみは小さくしたほうが分解しやすくなります。

※塩分を多く含むものは、投入しないでください。



②投入した生ごみと基材がよく混ざるように全体をかき混ぜます。

※基材の表面に生ごみが出ないようにします。



③かき混ぜ終わったら防虫カバーをかぶせます。

※ **空気を取り込むため毎日(生ごみを投入しない日も)、全体をよくかき混ぜてください。**

投入期間の目安

「ダンボールコンポスト」の使用期間は、1日平均**500g**の場合で、約**3ヶ月**投入できます。

- 基材のかたまりが多くなり、べたついた状態になった。
- アンモニア臭がする。
- 生ごみを投入しても、分解が遅い。また、温度が上がらない。

これらは、
投入期間終了の
サインです。

分解について

- 開始してすぐには、分解は始まりません。1週間～10日程度かかりますが、温度が上昇し微生物の活動が活発になると、分解しやすいものは数日で形がなくなります。
- 温度が低すぎる(10℃以下)と、微生物の活動が弱まり、生ごみの分解が進みません。(冬場は、毛布などを利用し全体をおおって行うのもよいです。)
- 廃食用油(コップ1杯程度)、米ぬか(コップ1杯程度)、ご飯、肉などのカロリーの高いものを加えると温度が上がり、分解が進みます。
※ 温度が上がらない場合は、生ごみの投入量を減らすか、一時中断してください。
- 野菜中心の場合は、温度はそれほど上がりませんが、確実に分解されます。

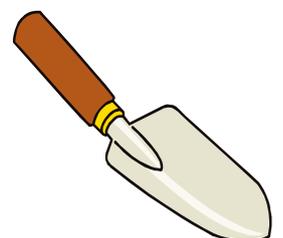
分解されやすいもの	分解されにくいもの	分解しないもの
ご飯、野菜くず、肉、魚 お茶がら、コーヒーがら 廃食用油、米ぬか	卵の殻 果物(レモンなど)の皮 根菜類(大根など)の皮	骨、種 たまねぎの皮、 トウモロコシの芯

熟成して堆肥へ

- ① 生ごみの投入をやめてからも、生ごみの形がなくなるまでは水分を保ちながら1日1回はかき混ぜてください。
- ② 生ごみの形がほとんどなくなったら、水分を与えずに、週に1～2回かき混ぜてください。
- ③ その後、基材の水分がなくなり、サラサラの状態になったら、1ヶ月以上寝かせて堆肥の完成です。



生ごみ投入終了直後



堆肥の使い方

- そのまま使用すると、養分の濃度が高いため、植物が枯れることがあります。そのため必ず**土に混ぜて**使用してください。
- 〈 堆肥 : 土 = 1 : 3~5 〉の割合で混ぜ合わせます。
- 堆肥をすぐに使わない場合は、ビニール袋などに入れて保管できます。
- 不要な堆肥は、市環境政策課で引き取りを行っていますので、お問い合わせください。

Q & A

～分解について～



Q : 生ごみを入れ続けると、ダンボール箱が満杯にならないの？

A : 生ごみは分解されると、体積が大きく減少します。そのため、ダンボール箱が満杯になることはありません。

Q : 生ごみの分解がなかなか進まない。どうすればいいの？

A : 開始してすぐには、微生物が少ないため、分解が遅いことがあります。2週間ほどしますと、微生物が増え、分解も進んで温度も上昇していきます。

それでも、分解が進まない場合は、2つの原因が考えられます。

①水分不足…基材に含まれる水分が減少し、乾いている状態だと分解がうまくいきません。水を追加し、手で握って団子になるくらいの固さの水分量を維持してください。

②気温が低い…温度が低すぎる(10℃以下)と微生物の活動が弱まり、分解の進みが遅くなります。適量(コップ1杯程度)の廃食用油や米ぬかを投入すると、温度が上昇し分解が促進されます。

～害虫・トラブル～

Q : 害虫が発生したが、対処法は？

A : 基材の温度が上がると、害虫は死滅します。そのため、害虫が発生した場合には、適量(コップ1杯程度)の廃食用油や米ぬかを投入し、よくかき混ぜてください。

もしくは、ビニール袋に入れて口を縛り、1～2日間天日干しすると、死滅します。

虫は取り除かず、再度ダンボールに入れて使用できます。

殺虫剤は、ダンボールコンポスト内の微生物を死滅させるので絶対に使わないでください。

Q : 臭いがしてきたが、対処法は？

A : 一度にたくさんの生ごみを入れると、温度が急激に上がり、カビや土くさい臭いがしますので、入れる量を調整してください。

また、生の魚や肉などを入れると臭いがきつくなります。その時には、生ごみの投入を止めてかき混ぜるだけにしてください。2～3日で臭いは落ち着きます。

※魚や肉は一度湯通し、もしくは火を通してから入れると臭いが少なくなります。

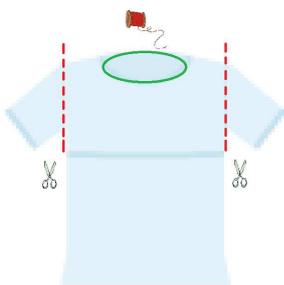
※お茶がらやコーヒーがらを入れると臭いが和らぐとされています。

※くん炭を追加することも効果的です。

Q : カビが発生したが、対処法は？

A : 基材の表面に白カビが生えることがありますが、これは好気性菌であり、人体には無害なものです。そのまま続けて問題ありません。

防虫カバーの作り方



- ① 伸縮性のあるTシャツ等の古着を用意します。
- ② 点線のように袖の部分を切り取ります。
- ③ ②で切り取った部分と、首の部分を縫い合わせます。

ダンボールコンポストの取組みは、これまで**ごみ**として捨てられていた生ごみを、**資源**として再利用するべく始めたものなんじゃ☆

むつ市は住民一人当たりのごみ排出量が全国・県平均に比べて高く、その中でもむつ市のもえるごみ量に占める生ごみの量はなんと約4割にもなっておるのじゃ☆

ダンボールコンポストは、ごみの減量に効果的だし、堆肥として再利用もできるなんて素晴らしいの～☆



むつ市環境政策課

電話 22-1111 内線2462